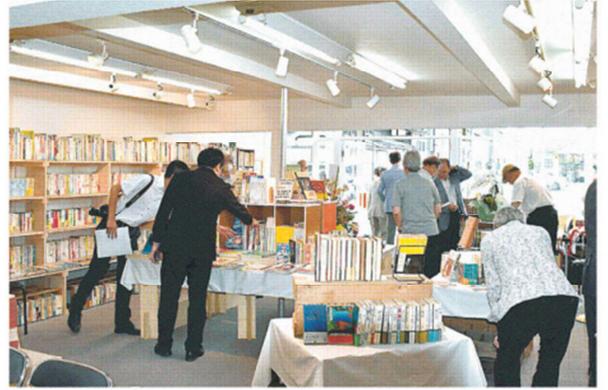


喜多方初 古書店

蔵に眠る5000冊集める



多彩なジャンルの書物が並ぶ古書店

「知の拠点」座談会や朗読も

喜多方市のまちづくり会社「蔵の街喜多方」は、市中心部のレトロ横丁商店街に、市内初となる古書店「丁目の夕陽」をオープンした。蔵の町喜多方に眠る古書約5千冊を所蔵、店舗では座談会や朗読会も開くといい、関係者は「『知の拠点』として新たなコミュニティを生む場になりたい」と期待を寄せる。

関係者によると、大規模な災害や戦禍に遭わなかった喜多方には約4千棟の蔵が残っており、その蔵には明治や大正時代など当時の暮らしを伝える歴史ある書物が数多く保管されているという。ただ空き蔵も多く、書物の保存や活用はうまく進んでいなかった。

市内には古書店がないこともあり、古書を通じて新たな町おこしにつなげようと、同社は商店街の空き店舗を改修。同市字2丁目にあり、「古書に光を当てる」の意味を込めて店名を「丁目の夕陽」にした。当面、ネット販売と店頭販売、催事販売を行うほか、古書の持ち込みもできるという。オープンは14日で、同社の矢部善兵衛社長は「市内になかった古書店を通じて商店街に活気を呼び込みたい」と話した。

営業時間は、平日が午前10時～午後3時、土、日曜日、祝日が午前10時～午後7時。不定休。問い合わせは同店舗（電話0241・23・7689）へ。

▲ 7月23日 福島民友新聞掲載

蔵の古書店で、ステキな本と巡り合えそうですね。



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When) いつ営業している？

(Where) どこで？

(Who) 誰(どの団体)が作った？

(What) 何を？

(How) どのような営業形態？

(Why) なぜ？

Blank lined area for writing responses to the questions.